

Title	介護職の日常的な知識共有のための「拡張アクティビティ図」の提案
Author(s)	三ツ木, 直樹
Citation	
Issue Date	2024-03
Type	Thesis or Dissertation
Text version	author
URL	http://hdl.handle.net/10119/18976
Rights	
Description	Supervisor: 西村 拓一, 先端科学技術研究科, 修士(知識科学)

概要

西村らは、環境要因が共通する入所系介護施設におけるケアについて、共有された知識をもとに、その場に特化した知識を構築する知識表現を提案した。しかし、知識を構造化した後、それを日常的な改善や閲覧を実施するには至っていない。伊集院らは、居住型介護施設の知識を構造化し、業務行為の手順や目的を明確化した。構造化知識を日常的に活用することは、現場従業員の業務に対する共通理解を促進することに高い効果が期待できる。

一方、在宅介護では入所施設とは違い、環境要因が個々の利用者で大きく異なる。訪問した一人の介護職員が、現場での個別事象や事故発生時の対応を迅速に検討・決定する必要がある。現場での知識共有方法の確立は緊急に解決したいニーズである。

本研究では、在宅介護現場での知識共有は、介護現場の職員が自ら使用し、自ら作ることができる知識共有ツールとして「拡張アクティビティ図」を用いて表現することを提案し、従来方法である CHARM および WBS+ガントチャートと比較検討する。

キーワード； 在宅介護， 知識構造化， 知識共有， UML2.0， アクティビティ図